# 馬耳東風

COVID-19の流行により，私たちの生活は大きな影響を受けている．不要不急の外出を避け，ステイホームを強いられ，本来会話を楽しみながらする食事に黙食を求められる等，感染防止のためとは言え，全く窮屈な世の中になったものだ．一方でこれまで考えもしなかった方式・手段等が普及し始めた他，感染症について専門家しか理解ができなかった用語や知識が一般常識化しつつある．特にテレビのワイドショーで専門家が，ウイルス，感染様式，免疫等の解説をすることで，私たちが学生時代に習った専門用語が世間で飛び交うようになった．間違って解釈されることなく正しい知識が普及することを願うばかりである．

小学校では全員にタブレットが配られリモート授業も可能となったそうである．先日孫の世話を頼まれタブレットなるものを見せてもらった．孫は学校から帰るなりタブレットを取り出し，勉強するのかと思いきやYouTubeにつなぎ漫画のビデオを見始める．授業のためのタブレットになぜ漫画が付いているのかと憤りを感じながら，タブレットに顔を近づける孫の目が心配になり，キャッチボールをしようと外に連れ出した次第である．

大学ではビデオ授業やオンライン授業が普通になり，先生や同級生と直接会ったことがないという事態になっている．さすがに実習が必須の獣医学科ではそのようなことはないが，通常1回で済む実習を三密を避けるために2～3回に分けて実施しているとのことである．大学の講義は1コマが90分間と長く，私もビデオ録画に苦労している．ビデオ録画したものを見返すと，たいてい2，3カ所言い間違えている．再度90分間の撮り直しである．対面講義では言い間違いに気付かずにいたのかと反省させられた次第であり，COVID-19の流行がなければ認識できなかった事である．

学会発表も対面での集会がほとんどオンライン形式となっている．令和3年度の日本獣医師会獣医学術学会年次大会もWEBによるオンデマンド動画配信での開催となった．私も拝聴したが，今回のような形式での開催に多くの利点があることに改めて気付かされた．まず，直接会場まで行く必要がないため交通費や宿泊費が要らず，参加費も無料であったこと，14日間の配信であったことから自分の都合の良い時間に聴講できたこと，そして何より良かったのは，聞き漏らした点を何度でも聞き直せることにより深く理解することができたことである．更に，シンポジウムの総合討論も対面集会と同じようになされ，質問者や参加者が十分に満足したものと思われた．しかし，対面形式の学会では多くの人に会え，自分の専門に関しての知識やアドバイスが得られる他，親交を深めることもできる等の対面ならではの利点は望めない．COVID-19の感染が収まり，対面での学会が開催されることを願いつつ，参加費が上がってもできることなら両者の利点を持つハイブリッド形式で開催してもらいたいと思う昨今である．（平）